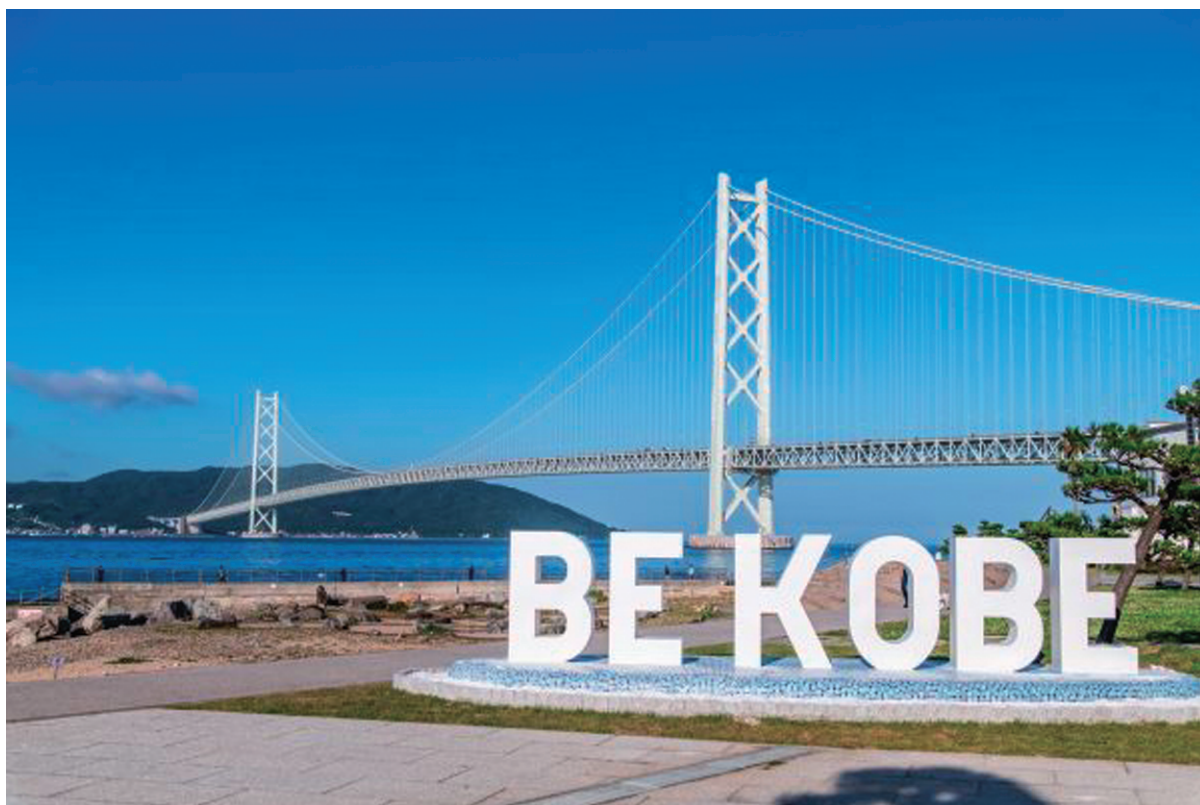


# 税金とわたしたちの生活

中学生の「税についての作文」作品集

(令和5年度版)



神戸納税貯蓄組合連合会

## はじめに

本年も全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催する中学生の「税についての作文」を募集いたしましたところ、各中学校の先生方のご協力によりまして、10校から733編のご応募をいただき、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。  
ここに、ご応募のあった中の優秀作品を掲載させていただきます。

## \*\*\*\*目次\*\*\*\*

### 【近畿納税貯蓄組合連合会会長賞】

形を変えて廻る税金 神戸市立筒井台中学校 三年 梶原 優月 1

### 【兵庫県納税貯蓄組合連合会会長賞】

認知症と税 神戸市立渚中学校 三年 池田蒼一朗 1

若者への税金の使い道について 神戸市立湊翔楠中学校 三年 森 清良 2

### 【神戸税務署長賞】

未来を背負う消費税 神戸市立筒井台中学校 三年 松岡 瑞穂 2

消費税下げて大丈夫？ 神戸市立神戸生田中学校 三年 井上 美幸 3

### 【兵庫県神戸県民センター長賞】

税金で作る理想の未来 神戸市立渚中学校 三年 吉本 芽依 3

### 【神戸市中央区長賞】

医療ツーリズムと繋がり 神戸学院大学附属中学校 三年 上城 沙姫 4

### 【神戸市中央区租税教育推進協議会 代表幹事賞】

税の役割 神戸市立神戸生田中学校 三年 堀口 理人 4

### 【神戸納税貯蓄組合連合会会長賞】

税金というものを知る (学校名非公表) 三年 庄治 凜花 5

今を生きる私達にとって 神戸市立神戸生田中学校 三年 小島はんな 5

世界の税 神戸市立神戸生田中学校 三年 ブッハー真璃香 6

未来の生活について 神戸学院大学附属中学校 三年 松田 望 6

### 【公益社団法人 神戸納税協会会長賞】

世界を救う税金 神戸市立神戸生田中学校 三年 森本真由香 7

少子高齢化の未来と税 (作品非公表) 神戸市立湊翔楠中学校 三年 東田康太郎 7

巡る税 神戸山手女子中学校 三年 坂本 藍紗 7

### 【神戸優法会会長賞】

学びになる税 神戸学院大学附属中学校 二年 宮下 弥瑛 8

### 【神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞】

未来へつなぐ 神戸市立神戸生田中学校 三年 篠原 伽緒 8

将来に向けての資産形成について 神戸市立葺合中学校 三年 箱崎 大地 9

税の軌跡と必要性 神戸市立布引中学校 三年 福永 悠馬 9

消費税率に対する僕の意見 神戸市立義務教育学校 九年 佐々木 誠 10

生きていくために 神戸龍谷中学校 三年 富依 千夏 10

新たな意見、新たな道筋 神戸学院大学附属中学校 三年 鈴木 菜央 11

少子高齢化と税 神戸学院大学附属中学校 三年 平良 結 11

私達の生活を支える「税金」 神戸学院大学附属中学校 二年 北野 修蔵 12

大谷翔平の年俸と税金 神戸学院大学附属中学校 二年 京山 陽南 12

支え合いの社会 神戸学院大学附属中学校 一年 勝山 拓海 13

父の仕事 神戸学院大学附属中学校 一年 佐藤 颯 13

税のある暮らし 神戸学院大学附属中学校 一年 富谷 栞奈 14

近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

## 形を変えて廻る税金

神戸市立筒井台中学校 三年

梶原 優月

### 「不治の病」

この言葉を聞いてどんな病気を思い浮かべますか。かつて世界で流行した赤痢、コレラ、結核などを思い浮かべるでしょうか。日本では「不治の病」と闘っている子どもたちがたくさんいます。その「不治の病」のひとつは、毎日四回の注射を打たなければならない病気、一型糖尿病です。一型糖尿病とは、血糖値を下げる唯一のホルモンであるインスリンをほとんど作れないか、あるいはまったく作れないときにおこる病気です。この病気の患者さんは様々な病気との合併症を発症したり、血糖値の上昇によって昏睡や死に至ってしまったりすることがあります。しかし、今日の日本の医療技術では血糖値が上がりすぎるのを防ぐために注射やポンプでインスリンを補充する治療しか行えません。また、根本的な治療として、インスリンを作る器官である膵臓を移植するというものもありますが、日本の一型糖尿病患者約十二万人に対し、日本で死後に臓器提供されるドナーは、年間百人前後しかおらず、不平等な現状となっています。

「すべての人に健康と福祉を」  
「人や国の不平等をなくそう」

これらは持続可能な開発目標（SDGs）の一部です。世界でSDGsに基づく政策が行われている中で、前述したような一握りの人だけが健康になれるという不平等な現状を

改善し、不治の病と闘う子どもたちを救うために、日本でもある研究が行われています。それが、無限の増殖能力を持つiPS細胞を利用し、より多くの患者へ再生医療を届けるという研究です。この研究が成功すれば、ドナー不足による不平等な状況を解決し、患者やその家族を不安から解放することができま

す。

この研究を進めるために必要なお金は国民の税金から賄われています。私の兄は生まれる前から病気を患っていて、私は小さい頃から、兄が病気と闘う姿をそばで見してきました。兄が諦めずに今も病気と向き合いながら生きることができているのは、家族や友人の支えだけでなく、しっかりと治療を行ってくれる病院が兄に生きる希望を与えてくれていたからだと思います。

私たちが何気なく納めている税金は、病気で苦しんでいる人や、病気のせいで何かを諦めざるを得なくなってしまう人に希望を与える力を秘めているのです。税金は使い道がわからないと、なんだか損をした気分になることもあるかもしれませんが、私たちが納める税金は、巡り巡って、大切な家族や友人、未来の社会を担っていく子どもたちに形を変えて届きます。その形は、医療であったり、適した環境であったり、それらがもたらしてくれる希望であったり、様々です。私たちが納める一円一円が積もれば、誰かの人生を変え、幸せにすることだってできるので、私は、税金が色んな形でこれからより多くの人を幸せにしてくれると、信じています。

兵庫県納税貯蓄組合総連合会会長賞

## 認知症と税

神戸市立渚中学校 三年

池田 蒼一朗

僕は、租税教室で神戸市独自の税があると聞いて興味を持ち調べてみた。それは「認知症神戸モデル」だ。

この制度は認知症患者やその家族が安心して暮らし続けることができることを目的としたものだ。日本の二〇二〇年の六十五歳以上の人口割合は二十八パーセントで六十五歳以上の認知症患者は約六百二十万人というデータがある。このような高齢化社会の中で問題になっているのは認知症だ。近年認知症の疑いのある高齢者の交通事故や不慮の事故のニュースをよく見ることが増えた。二〇二〇年の調査では自動車運転中に死亡事故を起こした七十五歳以上の認知機能検査の結果で全体の約四割にあたる百五十人が認知症の恐れ、または認知機能低下の恐れと判定されていたのだ。このような認知症の疑いのある高齢者の事故が増えていく中で神戸モデルでは六十五歳以上の市民が自己負担ゼロで検診を受けることができる「診断助成制度」と万が一認知症患者が事故を起こした場合、賠償責任保険などにより救済される「事故救済制度」によって支援を届けるようにしている。僕はこの制度を調べていく中で驚いたことがある。それはこの制度が出来たきっかけだ。それは、ある認知症患者が電車にはねられ死亡してしまっ

た事故で鉄道会社が、その家族に損害賠償を

求めて提訴したという出来事だ。結果的には家族に賠償責任は無いと裁判で判決が出たが認知症患者により損害賠償を請求される可能性があり、仮に今回のように加害者側に責任がないとなれば、被害者は救済されないということになる。このニュースから神戸市長は地域社会全体で負担を分かち合う仕組みが求められると考えたのだ。しかし、この事故が発生したのは神戸市でもなければ、兵庫県でもない県外で発生したものだ。僕は他県で起きた事故から問題意識を感じ、それを実行できる場所に行動力があるなと思った。また自己負担ゼロというのも気軽に受診ができるようになっていいると感じた。僕の住んでいる地域も高齢者が多く集会所などではシニア向けのイベントなどがあった。

僕は、認知症診断や予防のためのイベントを集会所ですること、より幅広く様々な人に認知症と向き合うきっかけが生まれると思った。またSNSを活用することで地方に住んでいる高齢者にも情報が届きやすくなると思うし、高齢者以外の市民を認知症について考えが広まったらすごく認知症に優しい社会になると思った。僕自身もこの神戸モデルで認知症について知ることができたので、祖父、祖母などと話してみたい。

## 若者への税金の使い道について

神戸市立湊翔楠中学校 三年

森 清良

「少子化問題」「超高齢社会」という言葉  
をニュースなどでもとてもよく耳にする。N  
インターネットのNHKの記事によると、十  
八歳前後の若者に行われた調査で「将来子  
どもがほしいと思うか」という質問に「そう思  
う」と回答したのは全体の四十六パーセント  
だったそうだ。私自身は子どもが好きなので、  
この四十六パーセントという数字は少ないと  
感じる。そして「結婚そのものをほしくない」と  
いう回答も多いのだそうだ。

なぜ若者たちは子どもをほしくないと思わない  
のだろう。理由の半数以上が「金銭的な負担」  
や「子育てと仕事の両立が大変だから」だそ  
う。金銭的な負担というのは具体的に何だろ  
う。大学まで進学するために、若者が国や専  
門の機関からお金を数百万円借りる人が多い  
からだそうだ。いつまでもその借りた分の返  
済が続くために仕事をするのに必死で、お金  
のかかる結婚や子育てを考える余裕がないの  
だそうだ。私も同じ立場だったら、結婚した  
り子どもを育てる気持ちにならないかもしれ  
ない。

少子化問題の改善のために私たちは必ず結  
婚して子どもを産まなければいけないのだろ  
うか。若者だけに社会の責任を押し付けられ  
ると腹が立つ。ここまで対策をしてこなかっ  
た大人たちが悪いのではないかと思う。

しかしこのままほとんど少子化が進んでいっ

たら、将来的には今よりもっと子どもが極  
端に少なくなつて、もしその子どもたちもま  
た結婚をしなかつたり子どもを欲しがらなかつ  
たら。子どもが生まれなくて中高年だけの世  
の中になれば、将来は日本という国そのもの  
の人口が減ることは目に見えている。そんな  
想像をするだけで自分が大人になる時代がと  
ても不安になつてくる。

もしお金を借りずに大学に進学できる世の  
中だったら、若者は今よりは金銭面も気持ち  
も余裕を持って生きていけるかもしれない。  
それを実現するために兵庫県が県立大学の無  
償化を計画した。このニュースはこれからの  
少子化対策への大きな一歩だと思う。

私は三人兄妹の一番末っ子だ。母に三人の  
子どもを育てることをどう感じていたか質問  
してみた。すると「子どもが小さかった頃は  
朝から晩まで子どもの世話に手を取られて、  
ゆっくりと寝る暇も休む時間も無かったので、  
たまには誰かに家事をお願いして一人の時間  
が欲しかった。」という答えが返ってきた。  
そして成長した今は子どもの学費がかかるた  
め金銭面が本当に大変という事だ。

母は今、町の子育てをサポートする仕事を  
するために兵庫県の子育て支援員の講習を受  
けている。経験のあるお母さんたちが、保育  
所の補助や、子育てひろばや、ベビーシッター  
などいろいろな場所で、必要なお手伝いをし  
てもらえる仕組みが整えば、若者たちが安心  
して子育てをしやすい世の中に変わっていく  
だろう。

## 未来を背負う消費税

神戸市立筒井台中学校 三年

松岡 瑞穂

私たちが、今生活できているものにはたく  
さんの税金が使われていて毎日過ごしていま  
す。私は、中学生になるまでごみ処理場や信  
号機など税金で作られているなんて知りませ  
んでした。そんな税金は私たち人間の必ず果  
たさないといけない責任でもあり義務でもあ  
ります。私たちの身近な税金といえば消費税  
だと思えます。私はどうして消費税が上がる  
のか、そのメリットについて気になり調べま  
した。消費税率は二十九年十月に十%にな  
りました。その理由として、現在日本は速い  
スピードで高齢化が進んでおり、高齢化に伴  
い社会費用が増えて借金や税金に頼る部分が  
増えていくからです。そして社会保障制度を  
次世代に引き継ぐには安定的な財源の確保が  
必要だからです。しかも、その多くは借金に  
頼っており私たちの世代に負担を先送りして  
いるという状況です。未来の私はちゃんとも  
しかしたら今より高い消費税やその他の税金  
を払えているのか心配になりました。どうし  
て上げるのか、消費者たちにとっては商品の  
値段が高くなってつらいのではないのかと思  
いました。ですが引き上げた分には待機児童  
の解消や保育の無償化など使い方が高齢者中  
心だったものが国民全体で負担し合い、支え  
手が増えたことによりより広い範囲で活用  
できることが分かりました。確かに、他の税  
金と比べて特定の人たちに偏る税金だけでは

なく国民全体で負担を分かち合えるこの税は  
消費税のメリットだなと思えました。そして  
所得の低い方への配慮もあり軽減税率により  
家計への影響を緩和されていて優しいと思  
いました。しかし軽減税率は八%のままだけ  
どその対象外のもの十%で高くしてしまう  
ことで買う人が少なくなつてあまり消費税が  
入らなくなると考えた八%のままでもいい  
んじゃないかなと思つてしまいました。です  
が色々調べた後、私のその考えは違うなと気  
づきました。今少子高齢化が進んでいるとい  
うことは、私が大人になったころには労働人  
口が減つて、それに対する税も減少し結局借  
金に頼るとなると意味ないのでそれを補うた  
めには消費税を上げるしかないんだと思  
いました。私は、この作文をきっかけに普段何  
気なく払っている消費税についてより深く知  
ることができました。もちろん学生の私にとつ  
て大好きなお菓子や食品が値上がりしてい  
て正直つらいです。十%の消費税で政策でき  
ているのなら「じゃあたくさん買おう。」と  
まではならないけれど自分も協力できている  
んだとポジティブ思考で考えたら少し嬉しく  
なりました。これから増えるであろう消費税  
を無駄に使わず、これからの将来いろいろな  
人が助かるような政策を創ってほしい  
なと思えました。



## 神戸税務署長賞

## 消費税下げて大丈夫？

神戸市立神戸生田中学校 三年

## 井上 美幸

私は道を歩いているとき、選挙の公約のよ  
うな物が書かれているポスターを見て「消費  
税って簡単に下げているものなのかな。」と  
思うことがあります。税込の中でも大きな割  
合を占めている消費税を下げてしまっても大丈  
夫なのかよく考えてみました。

私は小学五年生の時、捻挫をしてしまっ  
て約三ヶ月病院に通うことになりました。週一  
回病院に行っていたので四〇〇円×五×三で  
合計六〇〇〇円ほど払うことになりました。  
もし、税金で賄われている国民医療費が出な  
かったら自分たちでもっとたくさん診察代を  
払わないといけないところでした。

また、私達中学生が日頃生活している学校  
は税金でいろんな物が用意されています。教  
科書、机、部活の備品など、中学生一人当た  
り年間税金で負担してもらっている額は約百  
九万千円です。もし、税金がなかったらその  
金額を自己負担しないといけなくなります。  
他にも、調べてみると風呂やトイレが普通  
に使えるのも税金のおかげであることが分か  
りました。

また、最近では少子高齢化が進み、たくさ  
んの人で一人の高齢者を支えていた昔から、  
ほぼ一人でもう一人高齢者の生活を支えない  
といけなくなりました。

そうすると、大人一人から取ることでき  
るさまざまな税金は、それぞれの収入などに

よって決まっているため、高齢者を支えられ  
なくなる部分が出てきます。すると、国は借  
金をするなどしてでも、高齢者を支えないと  
いけなくなるので、年々借金はたまり、かえ  
らないといけなくなっています。

国の財政が決して楽とは言えない状況で消  
費税を下げると、国が少し多く借金をしない  
といけなくなります。

消費税を下げると、少しだとしても私達子  
供が将来却さないといいなくなる借金が増え  
てしまいます。

このように消費税は私達が困ったとき助け  
てくれたり、日常生活を支えたり、私達の将  
来を少しくよくしてくれている制度だと分かり  
ました。税込の中で大きな割合を占める消費  
税を下げると保障できないことが増え、日常  
生活が送れなくなってしまうので、みんなが  
これからも、10%の消費税を払ってお互いに  
助けあえたらいいと思いました。

また、自分が選挙権を持てる年齢になっ  
たら、国の財政について考えている人を選べ  
たいと思います。



## 兵庫県神戸県民センター長賞

## 税金で作る理想の未来

神戸市立渚中学校 三年

## 吉本 芽依

「今日は気温が三十度を越えているから、  
熱中症にならないように気をつけてね。」  
と母に言われたとき、私は思わず耳を疑った。

まだ七月上旬だからだ。近年、地球温暖化が  
深刻になっているとは知っていたものの、こ  
こまで私たちの生活に影響するとは思ってい  
なかったのだ、とても驚いた。そこで、地球  
温暖化の防止につながる税を調べてみるこ  
とにした。

先日の授業で配布されたパンフレットを読  
んでいると、「県民緑税」というものがある  
と知った。これは、兵庫県が独自で行って  
いる取り組みだ。「県民緑税」は主に「災害に  
強い森づくり」、「都市の緑化」のために使わ  
れている。

「災害に強い森づくり」では、森林がもつ  
防災機能を向上させるため、山崩れの危険性  
が高い人工林を対象に、土留工や簡易流木止  
め施設を設置している。そうすることで、土  
砂災害を防止でき、高い整備効果を得られて  
いる。「都市の緑化」では、都市環境の改善  
や防災性の向上を目的に、住民団体が行う植  
樹や、芝生化などの緑化活動に対して支援す  
る「県民まちなみ緑化事業」を推進している。  
これらは全て、二酸化炭素の吸収による地球  
温暖化防止機能や、安らぎ空間の創出など、  
私たちの生活を豊かにしてくれているものと  
気がついた。

地球規模で深刻化している環境問題に対し  
て、自分が住んでいる県が自ら対策をとって  
いると知り、嬉しく思った。他の国はどのよ  
うな取り組みがあるのか疑問に感じたので、  
詳しく調べてみた。すると、一九九〇年のフィ  
ンランドの炭素税を初め、世界中で地球温暖  
化対策税があると分かった。

これらのことを調べて、世界は税金によっ  
て支えられていると知った。今まで、お小遣  
いで買い物をする私にとって、税金はマイナ  
スなイメージが強かった。しかし、支払って  
いる税金は、私たちの生活を豊かにしてくれ  
ていると気がつき、前向きに捉えられるよう  
になった。また、地球温暖化の防止など、同  
じ目標を掲げて世界中で協力していると分か  
り、税金のすばらしさを身にしみて感じた。

「中学生の私には、何もできない。税金に  
関わっているのはおとなだけだ。」  
と思っていたが、そうではないと気がついた。

例えば、学校の机や椅子は自分だけが使うも  
のではないから、今後使う人の気持ちを考え  
て扱うなどだ。このような考えの人が増えた  
ら、税金が「本当の意味で有効的」になるの  
ではないか、と私は思う。

日本は税金が約五十種類もある。どれも役  
割は異なっているが、私たちの生活を豊かに  
してくれていることに、変わりはない。今回  
はその中の一つである、「県民緑税」に重き  
を置いて調べたが、他の税金も調べてみたい  
と思った。そして決心した。「私は立派な納  
税者になる」ということを……。

## 神戸市中央区長賞

## 医療ツーリズムと繋がり

神戸学院大学附属中学校 三年

## 上城 沙姫

「医療滞在ビザ」という日本において治療等を受けることを目的として訪日する外国人患者に対し発給されるものがある。日本の医療の質は高いと聞かすが、海外からわざわざ治療のために来る人もいるくらいなのだから、信憑性は十分だろう。

それはさておき「患者が医療サービスを受ける目的で他国へ渡航すること」を「医療ツーリズム」というそうだ。「医療観光」ともいうらしい。つまり医療滞在ビザは医療ツーリズムのためのビザということになるだろう。医療と観光を合わせてしまうなんて、これはまた斬新な事があるものだと思うが感心してしまう。だが、わざわざ外国で質の高い医療を受けるとなるとそれに伴い、値も張るといふものだろう。自分の身体は大事にするべきだが、治した結果懐が寂しくなるといふのもなんだかいたたまれない。少し気になり、医療費の負担額について調べてみると、外国人でも健康保健に入っていて保健証を提示すれば、個人が払う医療費の負担は日本人と同じ三割になるそうだ。三割といってもあまり実感が湧かない。大幅に安くなっていることは理解できるが、今一ピンとこないのだ。そこで「癌手術の治療費目安」の資料を基に三割とはどれくらいにあたるのかを確認してみると「肺がん」の治療にかかる費用は約六十万円、「胃がん」では約五十万円

ある。これが全体というわけではなく、これが「三割」なのだ。「肺がん」を取り上げて見ると実質、費用は約二百万円である。六十万円も相当な額だが、二百万円となると貯金が無い場合、生活は苦しくなるだろう。この費用が六十万円になるにあたって「残りの七割にあたる四百四十万円はどうなるのか」というのは気になるところだった。日本の医療費の財源構成は保険料が全体の五割を占めており、次いで税金が約四割、患者自己負担が約一割となっている。さらに歳出を見てみると、「社会保障」が約三十パーセントを占めているのだ。金額で言うところ約四十兆円、このうち約十六万円が医療費に使われている。これだけ膨大な額の管理をしている人には頭が上

がらない。ここで一つ、自身の経験を話すと、私は切除手術で一度入院したことがある。退院の際に父がお金を支払っているところを隣で見ているが、二十万円が五万円まで減っていた。今でも年に一度、通院しているが、五百円で済んでいるのだ。この「五百円」は「ことも医療費助成制度」のわかりやすい例なのだ。海外では救急車を呼ぶのにもお金がかかると聞かすが、日本では無料である。これらのことにも税金が関わっているのだ。つまり税金によって助けられ、私たちもまた税金を払うことで誰かの助けになっている。直接的ではないとは言えど、繋がっているのだ。この発見も海を越えて来た人とも繋がりができる税金もなんだか素敵なものだと私は思う。

## 税の役割

神戸市立神戸生田中学校 三年

## 堀口 理人

私は、税の学習の中で、税金とはどのようなものなのか、何に使われるのかを学んだ。では一体、税金というものを一言で簡潔に表すなら何かを考えてみた。そこでまず、税金の主な使い道を考えて。道路の補修、教育機関や保険制度の整備がまず思い浮かんだ。では一体、それらの使用用途に共通して言える税の役割とは何だろう。私はある種の投資であると考えた。それは、企業や個人ではなし得ない投資である。なぜならば、税金をつかう場合に、必ずしも金銭的な見返りが返ってくるとは限らないからだ。教育機関がその最たる例だろう。私も中学校に通い、学んでいる。しかし、私が支払う税金といえば、消費税ぐらいだろう。つまり、短絡的な思考で考えれば、国が教育機関をいくら充実させようと、金銭的にはなんの利益もない。しかし、質の高い教育を受けて育った人材は、後に国が持つ強力な武器になるだろう。そういったすぐに利益が出ないことに対して使える、それが税金の最大の強みであると私は考える。それは、未来への投資である。また、保険制度や道路の補修についても同じことが言えるだろう。国の武器である優秀な人材を病気が守るのが保険制度であり、そういった人々が快適に生活できるために必要不可欠なのが道路の補修なのだから。道路からヒビをとり除いてもすぐにはなにも起らないかもしれ

ないが、それらが総合して住みやすい町、国となっていく。

私はこうも考える。税金を投資であると考えたとき、当然、その金額が大きいほどリターンも大きくなる。消費税率が8%から10%に引き上げられたのは記憶に新しいが、私はそれほど悲観的にみるべきではないと考えている。国が税金を広く集めることは、私たち国民がよりよい生活を送る上で必要不可欠だと感じているからだ。その根拠は主に北欧諸国にある。税金の国民負担率が世界でも高い水準であるにも関わらず、世界幸福度ランキングでは毎年上位の顔ぶれとなっているからである。税金を多く集めることが問題ではないのであれば、残る問題はその使い方である。私は、税金が、未来への投資として使われることを望んでいる。教育費をないがしろにしないで欲しいと強く願っている。私は税の学習を通して、税金とは、良くも悪くも、その国の内情を最も的確に表していると考えた。私たちには税金の役割をしっかりと認識し、有用につかわれているかを注視し、自分達もまた有用につかえるための努力をする責任があると思う。

神戸納税貯蓄組合連合会会長賞

## 税金というものを知る

(学校名非公表)

三年

庄治 凜花

私は小学六年生の二月、虫垂炎、一般的には盲腸と呼ばれる病で入院した。辛い入院だったが、それなりに楽しかった。ある時、ふと母が持っていて資料が気になった。手に取って読んでみると、入院にかかる費用のことが目に入った。三週間ほどで退院できたが、よく考えれば、入院するのにも、食事代、治療費、たくさんのお金がかかるはずだ。なんとなく頭で考えただけでも、安くはない金額になった覚えがある。病気になったのは仕方ないことではあるが、正直申し訳ないと思っていた。入院費などはどうなっているのか母に尋ねると、市の医療費の助成制度で入院代は無料だという。そのお金はどこから来たのかというと、私たちが払っている税金だと知った。

その時私は税金というもののありがたみを実感した。もし税金がなければ、入院費を払わなければいけなかったかもしれない。食事代などだけでは済まなかったのかもしれないのだ。そう考えるとやはりありがたいものだった。思った。

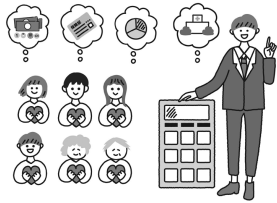
今まで税金などあまり気にしたことはなかった。考えても、払わざるを得ないものであるとしか思えなかった。そんなに払わないといけないものなのかなとも思った。でも、多くの人の生活を支える大切なものであるということが分かった。このことがなかったら、今

でも考え方が変わらなかったかもしれない。

この作文を書くにあたって、初めて税金の使い道などを調べた。今まで知ろうとしてもいかなかったことだった。世間一般では悪いイメージであるように思う。消費税がどんどん上がった、所得税で、仕事をもっとしたくても、しないほうが収入の良い人がいたり。少なくとも、私がそう思ってしまう環境にある。でもそれがすべてではないとわかったのは調べたからだと思う。

現在、学校ではあまり税のことなど教わらないと耳にする。それなのに、大人になれば知っていてあたりまえだという扱いをされる。それはどうなのだろう。学校で教わらずにどこで教わるというのだろう。きっと自分で調べた人は調べない人よりずっと少ないだろう。私自身もそんなに知識があるわけではなかった。学校でちゃんと学生に教えるべきだと思う。

税金についてしっかり知らなければ政治に関しても何も言えないと思った。大人になってみれば税への印象も変わるかもしれない。まだまだ知らないことは山ほどある。まずはちゃんと知るところから始めたい。



神戸納税貯蓄組合連合会会長賞

## 今を生きる私達にとって

神戸市立神戸生田中学校 三年

小島 はんな

今を生きる私達に求められるのは、問題を客観的に見て、解決方法を探ることではないかと思う。では、今現在日本の問題として議論されているものは何か、というと、それは少子高齢化である。その問題点として挙げられるものは、経済規模の縮小、地方の過疎化など、数えきれないほどある。その問題点を税の面で考えてみるのだろうか。国税庁によると、高齢者が増えることで医療や年金などの、税金が使われている部分のお金が増えていくことになり、その上若者が減るので今の税のしくみでは若者も高齢者も辛い思いをしてしまう。では日本はどうするべきか？それを今回は考えてみようと思う。

まず、参考にするために、税金の高い国と税金の少ない国は無い国を挙げる。税金の高い国として、ノルウェー、スウェーデンそしてフィンランドの北欧3ヶ国、税金の少ない国としてアメリカを調べることにした。今回は消費税について調べたいと思う。理由は自分に最も身近な存在な上、消費税を見たらその国の社会の制度が大体分かると考えたからだ。まず、北欧3ヶ国の中でも特に消費税が高いノルウェーについて考えていきたいと思う。ノルウェーは標準消費税24%、食料品消費税12%であり、日本が標準消費税10%、食料品消費税8%なことを考えると、とても高く暮らしているのではないかと思う。しか

し、実際は世界の幸福度5位と、高い幸福度を誇っている。調べてみると、ノルウェーは消費税が高く設定されている一方、出産や子供の学費が無料である。また、日本と同じく高齢化が進んでいる国だが高齢者向けの社会保障サービスを充実させている。こんなノルウェーを見て私は、日本も消費税高くしたらいいのにと素直に思った。こんなノルウェーに対してアメリカは、消費税が0である。他の税はアメリカにも存在するが、消費税が無いことは大きな違いではないかと思う。消費税がない分、アメリカは医療費などがものすごく高い。救急車を利用するだけで約4万円ほどかかってしまう。アメリカを見て私は日本では当たり前だと思っていた無料がすごいということに気付いた。今、2つの国を調べて比べてみて、私は税金をしっかりと徴収するべきだと考えた。理由は、日本はノルウェーと似て、高齢化が進んでいて、ノルウェーは消費税を24%にすることで、高齢者も生きやすい、若者も生きやすい社会になったと考えたから、日本もそうすると良いと考えたため。今回少子高齢化問題から、ノルウェー、アメリカ、日本の消費税について考えてみて今まで増税反対だったけれど、今はするべきだと考える。今を生きる私達にとって、税金というのには高くても困るものかもしれない。でもその税金には必ず意味があって、巡り巡って自分のために返ってくるものだ。私は税金を徴収することに賛成だ。



## 神戸納税貯蓄組合連合会会長賞

## 世界の税

神戸市立神戸生田中学校 三年

## ブッハー 眞璃杏

私は学校で税について学び、他国の税率やそのお金が何に使われているかということに興味を持ちました。そこで、私の母国でもあるスイスと日本の税を比較して考察したことを述べたいと思います。

まず、日本の税について調べました。消費税は8〜10%、所得税は所得金額に応じ5〜45%でした。所得税は、5・10・20・23・33・40・45の七段階に区別されています。税の使い道の約73%を占めるのは次の三つです。一つ目は社会保障関係費で約33%です。年金や医療・介護・少子化対策などの費用です。二つ目は国債費で約24%です。国債の償還や利払い費です。三つ目は地方交付税交付金等で約16%です。地方公共団体への助成金等です。この結果から約73%の使い道は社会や国民のために使われていることがわかりました。そこで次に疑問となる点は誰が使い道を決めているかです。日本での予算案を決めているのは政治家の方です。国民の多くは税の使い道を決めては知らないということです。

次にスイスの税について調べました。消費税は日本より低く7.7%で食品などは2.5%の軽減税率があります。さらに、宿泊には3.7%の特別税率が適用されています。所得税は連邦税が0.1〜1.5%、州税・地方税が0〜30%です。州税は3つの州で異なります。スイスは税金が高いというイメージを持つ人は多いと思

ますが、実は日本とあまり変わらないのです。

スイスの食べ物や生活用品などの値段が高いのは税が理由ではなく、もとの物価が高いからなのです。スイスは人件費が高いですが、その反面食品・医療費は低いとのことです。税の主な使い道は日本とほとんど同じです。しかし、日本と異なる点が一つあります。それは、誰が使い道を決めているかです。スイスでは直接民主主義のなごりから、州によって市民が予算案の是非を決める政治文化があります。住民が異議を唱えることができ、住民投票により予算を決める州があるということです。このように、公的予算の是非を有権者に問う制度を「財政レファレンダム」といいます。この「財政レファレンダム」はスイス流民主主義の一つの形とされています。私は今回、日本とスイスの税を比較して似ている点の方が多いということがわかりました。しかし、日本は例えば神戸市民の私達が税金の予算や報告に対して不満を持っても直接意見や異議を言うことが難しく、複雑な工程が必要となります。反対にスイスでは、住民（市民）が不満や異議を持ったとき直接物申すことができるシステムがあります。このたった一つの違いでも税の使い道などに大きな差があるように感じられると思いました。税は、よく表現されるスイスは合理的そのものを表現していると考えました。

## 神戸納税貯蓄組合連合会会長賞

## 未来の生活について

神戸学院大学附属中学校 三年

## 松田 望

私は今年で、中学三年生になった。最近私はあることについての疑問が多くなった。それは、私たちが病院を受診した時に払う医療費や学校で配られる教科書などの費用のもとになる「税」についてである。

最初に思ったのは中学三年生にあがって一ヶ月もたない頃で、「そういえば火傷や骨折などケガをしたときに医療費が四〇〇円なのはどうして。」とふと思ったのである。また、今年の十月からは医療費が四〇〇円なのが高校生まで拡大されることを知った。

そこで、なぜ高校生まで費用が安くなるのか調べてみることにした。調べた結果、「三歳から高校生までは「子ども医療費助成制度」というものがあることが分かった。

この制度は、都道府県によって少し異なるが、健康保険証を使って医療機関などを受診したときの医療費の一部もしくは全てを住んでいる都道府県と市が助成してくれる制度で子どもが治療を受けやすい環境を作り、子育て世帯の負担を減らす目的があるという。実際に私たちが負担しているのは一〜三割ほどでそのほかは全て国や自治体が負担している。こうして考えると受診や入院をしている患者さんが支払うお金が安いと思われるが、本当は負担してくれているお金はもともと私たちが国民が国に収めている税金でまかなっている

ものでなんでも受診をしていいことにはならないのだ。私は小さい頃からよく転んだりなどさまざまなケガをしているので、今もこの先も生活していく上で気をつけていかなければならないと感じた。

ここまでは医療費のことについて考えてきたが、私たちが納めている税金はこれ以外にも日常生活の中でいろいろな制度などに使われている。例えば、私たち学生が勉強することの中で必要不可欠な教科書にも使われている。無償の理由は義務教育の根幹を支えるものであり、また、我が国の将来を担う児童・生徒に対して国民全体の期待をこめているからである。これはSDGsにも関係があると思った。なぜなら教科書などの学業に関係するものが無償化されれば誰だって平等に勉強することができると思った。これが世界中に広がれば世界中の子どもたちが勉強・教育を受けることができると考えた。

これ以外にも救急車、消防車、警察、美術館、市役所などでも税金が使われている。日本は近代化が進んでいて、税を使う制度も増えてきている。税金というのは国が国民から徴収するお金なので税金ばかりに頼ってはいられない。なぜなら、少子化で今後税金では全てをまかなえなくなるおそれがあるからだ。私は来年で高校生になるが、それと同時に未来の生活を考える第一歩だとも考えている。今後生活の中で自分で考え、判断することが多くなってくるからこそ自分でしっかり未来について考えたいと思う。



公益社団法人 神戸納税協会会長賞

世界を救う税金

神戸市立神戸生田中学校 三年

森本 真由香

「暑くて体がとけちゃいそうだよ。」  
今年も暑い夏がやってきた。「地球温暖化」という言葉を聞くが、これもその影響の一部なのだろうか。私の両親は、「何年か前までは、ここまで暑くなかったのに。」  
とよく話している。

「本当に？」  
本当にそうなのだろうか。気になったので調べてみた。すると、世界全体では年間平均気温がここ百年の間で〇・七四度も上昇しているということが分かった。また、近年日本でも四十度近くの気温が観測されている。私はこの事実が驚いたとともに、これは世界全体が抱える深刻な問題だと感じた。

ここ数年、地球温暖化がテレビなどのメディアに取り上げられている。これは日本人および世界の人々が、地球温暖化による気温上昇で、問題の重要さを痛感したからではないかと思う。また気温上昇以外にも、それによって引き起こされる異常気象の災害の頻発や干ばつ・海面上昇などの被害も理由として挙げられる。そのまま進行するのを防止するためにも何か自分にできることはないかと思ひ地球温暖化について調べることにした。そして対策に「環境税」というものがあることを知った。

「環境税」は地球温暖化対策にも有効だと

言われており、欧州のあたりを中心に多くの国や地域で採用されている。一九九一年に環境税の一種である「炭素税」を導入したスウェーデンを例に見ると、一九九〇年を百とした場合、二〇一五年はCO<sub>2</sub>排出量の二五％減少に成功している。「炭素税」というのは石油や石炭などの化石燃料から排出されるCO<sub>2</sub>を課税対象とし、CO<sub>2</sub>の排出量に応じた税の負担を企業や個人に求めるという内容である。日本でも二〇一一年に「地球温暖化対策のための税」という炭素税の導入が決定された。試算によれば、二〇二〇年において一九九〇年比で約〇・五％から二・二％のCO<sub>2</sub>減少が見込まれるそうだ。欧州の国々よりは効果は少ないものの、確実にCO<sub>2</sub>削減にはつながっている。また、二〇二四年から国税として「森林環境税」も導入されることになっている。この取り組みは、税を「森林整備及びその促進に関する費用」「森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用」に役立てるものだ。森林を整備することで、樹木が温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>を吸収・蓄積し、地球温暖化防止にも貢献できると思う。

このように、税金は人々の暮らしを地球規模でも大きく支えている。一人一人が税金を納め、互いに支えあっている。私は今まで税金は国にお金を納めることだと思ひなかつたけれど、税金は日本だけに限らず、世界の人々のために役立っているのだと思ひた。将来大人になって、社会に貢献する気持ちで納税をしたいと思う。

巡る税

神戸山手女子中学校 三年

坂本 藍紗

「税金」は私にとって、公民の授業、歴史などで触れる他は、日常生活では余り意識せず、日頃は考えたこともなく、レシートにある消費税という文字を時々目にする程度のものでありました。しかし、今回リーフレットを調べたり、両親から話を聞くことにより深く考える機会となりました。まず思ったことは、「当たり前にあるもの、という事は無いのだ」ということです。まず、暮らしの中で一番大切な、「安心」「安全」。警察、消防署、裁判所、など犯罪や災害において、対処してくれる機関が税によって成り立っています。水道、ガス、電気、これらは現代の日本に住む私たちには必須のライフラインです。これらの整備も税金がなければ整わないものです。また、市民の暮らしに欠かせない、交通道路、橋、信号やガードレールなどの道路設備。そして、清潔な生活のための、ゴミ収集も、税金で出来ていることなのだ、と、納得しました。基本的な生活についての基盤を築いている上、人として教育を受けられる機関、公立の各学校や幼稚園、保育園についても、税金がなければ不可能なのだ改めて思いました。更に考えを進めると、文化的なことや、歴史的なことにしても、多くの税金がかなり必要であると分かりました。

この夏、私はその恩恵をたくさん受けたことを思い出します。ある日は図書館。沢山の

本や資料が市民に向けて無償で提供されて、冷房のきいた快適な空間で過ごした日がありました。また、ある時はコンサートホール。音響の良い場で聴きに行けて、本当に良かったです。そして旅行先で訪れた地では、お城や庭園の保全や修復に何十億かかっている、との掲示を目にしました。その時、これはこの市、県の税金が使われていて、私もこうして学べたり体験できているのだ、と本当に有難く思えたことが、自分自身でハッとしました。

歴史ある街で、日本人観光客よりも、海外からのほうが多いように感じたのですが、案内所などで配布されている地図や、解説のパンフレットが、英語や中国語、韓国語だけでなく、フランス語、スペイン語、ドイツ語と、各国語丁寧に書かれ、置かれていることにもすごいと思いました。街中も分かりやすいようにあちこちに方角の看板がきれいに建てられていたり、ゴミや汚れなども清潔にされており、空気がとても澄んでいて長時間歩いても過ごしやすく、心地良い所でした。豊かな生活は、その土地に住む人だけでなく足を運ぶ人々の為でもあり、その為の有効な「税金」の使われ方なのだと思います。観光客が来ればその国、都市、街にとっても利益になり、巡り巡って循環するのが、良い税金の使われ方だと旅行を通して考えられました。そして、社会に出た時には、未来の日本のために納税をして、政治にも関心を持ち、しっかり自立した大人になれる様、頑張ります。

学びになる税

神戸学院大学附属中学校 二年

宮下 弥瑛

夏休み中、高校生の姉が大学のオープンキャンパスに行くと言っているので、面白そうだし私も一緒に歩いて行くことにしました。大学はとて広くて、広い食堂がいくつもあって、スターバックスまで大学内にあったのに驚きました。私は

「大学ってすごいね！めっちゃいいね！」  
 と言うと母は

「そりゃそれだけお金もかかるしねえ」  
 と言いました。

調べてみると国立公立大学で四年間おおよそ二五〇万円、私立大学の文系で四〇〇万円、理系で五五〇万円。あまりの高さに驚きました。これは大学を選ぶ時にもよく考えないといけないなあと思いつつ、ニュースで「教育格差」と言う言葉を耳にすることを思い出しました。

二〇二二年度の大学進学率は五六・六％と過去最高を記録しています。しかし年収別でみると所得が低くなるにつれ大学進学率は下がっています。それは家庭の状況によって進学をあきらめてしまっている可能性があるということだと思えます。

調べていると進学を諦めないために、国の「高等教育の修学支援制度」と言うものがあるということを知りました。二〇二〇年から新制度となり返済不要の給付型奨学金や授業料の減免などの支援があります。この財源は

二〇一九年に八％から一〇％に引き上げられた消費税の税率引上げ分で賅われているというのでした。

消費税が増税される時、私は「生活に密着している消費税が増税されたらみんなの負担になるやん！」と腹立たしく感じていましたが、こういうところに活かされていたんだと分かり、知らずにいたことが恥ずかしく感じました。この消費税率引上げ分は待機児童の解消や介護職員の待遇改善など社会保障を維持していくために使われているそうです。

また、令和五年の一般会計予算歳出構成を見ると教育に関わる「文教及び科学振興」では五兆四一五八億円が割り当てられています。私たちが教科書を無償でいただけたり、学校の整備がされているのはこの予算のおかげです。つまり国民一人一人の税金が私たちの学びを支援してくれているのです。

学ぶ意欲のある人が経済的理由で進学を諦めることがないように、支援が充実していけばいいなと思います。またそれが次の世代へ支援をつなげる一歩になると思います。

税金を納めている国民全員に社会保障や公共サービスを受ける権利があります。限られた税金の中で、みんなが納めできる使い方ができているか、税を納めている私たちがちゃんと関心を持ち、税金の大切さを身近に感じることが必要だと思います。

未来へつなぐ

神戸市立神戸生田中学校 三年

篠原 伽緒

私は中学二年生の夏に「単純性骨嚢胞」と診断された。かかりつけ医からの紹介で、はじめ兵庫県の歯科大学病院で手術を受けたが、治療費が普段よりも高額で、私はとても驚いた。思わず母に

「そんなに高いの。」  
 と聞くと、母は

「これでも本来の金額の三割だよ。」  
 と教えてくれた。だとしたら、あとの七割は誰が負担しているのだろうか。すると、母はさらにこう付け加えた。

「それとね、今は県外だから三割払ったけど、神戸の区役所で申請したら、さらに負担が軽くなるよ。」  
 あれだけ大変だった手術が、たった数百円で済むということだ。とてつもなく痛い思いをして、その上で高額な治療費を払わされるとしたら、たまったものじゃない。私は少し安心した。

三年生になって、租税教室に参加した。配られたパンフレットの中で最初に目に留まったのは、国民医療費の公費負担額だった。そこで一年前の手術のことを思い出した。私たちに身近な税金といえば、消費税や、両親が納めている自動車税などで、私はそれくらいしか知らなかった。だから「税金は負担するもの」というイメージが強かったが、医療費や教育費など今の自分の年齢では助けてもらっ

ている部分が多いことに気がついた。

夏休みも始まって少し経った頃、新聞のある記事を見つけた。「県立学校へ三〇〇億円の集中投資」。莫大な投資額にとても驚き、思わず読み進めた。具体的にはグラウンドの芝生化、空調整備、特別支援学校の整備に三〇〇億円を投じるという。私たちが来年入学するであろう高等学校にも、何らかの形で支援がなされているということだ。この恩恵を受けることができるのは、今まで税金を納めていてくれた人たちのおかげだと知った。

今後このような支援が途切れないようにするために、今まで自分たちがしてもらったことを次の世代に返していくような気持ちで、税金を納めることに責任を感じていくべきだと思った。

少子高齢化と呼ばれ、二〇五〇年には現役世代一人で高齢者一人を担っていかなければならないことは、今後税金を納めていく立場になる上で、正直不安だった。しかし、自ら学ばハードルが高い税金について勉強したことで、国民が納めた税はどういうところに使われ、どんな風に私たちの生活を豊かにしているのかを理解することができた。また、「税金は負担するもの」という限定的なイメージは払拭されたように思う。税を知ることで今の日本を知り、ゆくゆくは日本の未来を考

えることにもつながると思った。

## 神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 将来に向けての資産形成について

神戸市立立音中学校 三年

## 箱崎 大地

少子高齢化が進む日本において、私たちは将来莫大に増える年金原資を負担しなければならぬことは誰でも簡単に想像できるだろう。では、逆に私たちが年金を受け取る側になった時、今の高齢者と同じ処遇が受けられるだろうか。恐らく無理だと思う。ならば自分の将来の生活をより良いものにするために、だろうか。その手段としては大きく分類すると二つある。

まず、一つはジュニアNISAだ。0歳から19歳まで利用でき、年間80万円最長5年間投資可能、株式や投資信託の売却益や配当金、分配金が非課税となる制度だ。18歳まで引き出せないため、運用しながら教育資金を貯めることもでき、節税にもなる。また相続税対策として子への非課税贈与としても活用できる。

そしてもう一つはイデコ（個人型確定拠出年金）だ。これは、20歳以上から65歳未満の人なら誰でも加入でき、毎月掛金を支払い、自分で運用方法を選んで運用し、将来掛金と運用益の合計を給付として受け取ることができる。メリットとしては、掛金が所得控除の対象となり住民税の負担が軽減されることと、運用益について非課税ということ、さらに、年金か一時金か受け取り方法を選べる点が挙げられます。

日本では、欧米に比べ、投資に対する考え

方がかなり保守的で、よく言われるのが「投資」「損をする」「減るなら投資する意味がない」つまり、リターンが少なくても減らないことが一番良いと思われがちです。それは本当にそうでしょうか。

日本の経済は30年前のバブル崩壊以降、低迷し続けており、その結果は今の各国の株価指数を見ると一目瞭然で、バブル当時の日経平均株価は38957円、一方で米国の代表的な株価指数であるNYダウは1895ドル、そして約30年後の現在、日経平均株価は33000円、NYダウは35000ドル。何とNYダウは30年前の18倍程度に上昇しているのに対し、日本は約08倍と完全に米国に対して出遅れています。これは、バブル崩壊で損をした人が市場から去ってしまったのと、日本企業の資金が上がらないからだそうです。

この期間を失われた30年と言うそうです。なぜこうなってしまったか、それは日本での投資教育の遅れのせいだそうです。日本でも若い頃から会社や経済の仕組みを知る機会を作り、投資をもっと身近な事象として捉えることが大切なのではないかと思えます。私が増えたらいいなと思うので、様々な制度を活用しようと思えました。

## 神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 税の軌跡と必要性

神戸市立布引中学校 三年

## 福永 悠馬

我が国日本には、税というものがあります。

税とは、国や地方公共団体がいろいろな公共サービスを提供するために資金が必要ですから、何らかの方法で資金を集めなければなりません。そこで、資金を国民から集めますが、この資金が「税金」なのです。私たちが受けているさまざまな公共サービスは、税によって成り立っているのです。

例えば、けがをしまい、病院にいき治療をしてもらうと、もちろんお金がかかります。しかし、しっかり納税していると、かかる金額の一部には、税金が使われます。その他にも、年金をもらうときや、介護が必要になったときなど、税はいろいろなところで使われているのです。

そして税には、所得税、法人税、相続税、贈与税など、挙げだすとつきりがないほどたくさんあるのですが、調べていて気になったのは、消費税です。今回のことを調べるまで、税についての知識がほとんどなかったのですが、唯一、消費税については少しだけ知っていました。しかし、どのようにして使われているかなど、くわしいことについては知らなかったのが今調べてみることにしました。調べた結果、消費税の約9割は、年金・医療・介護・子育てなどの社会保障に使われ、残りの部分は、身近な地域のくらしのために活用されていると知ることができました。こ

のことは知るまでは、ただ物が高くなる嫌な税という認識だったので、それが巡り巡って自分や周りの人達に返ってくるということを知れて、この税の重要性を知ることができました。

そして調べているとインボイス制度というものが出てきました。調べていくと、令和五年十月一日からの制度で、中小企業などにおいて取引内容や消費税率で、消費税額などの記載要件を満たした適格請求書（インボイス）を売り手が買い手に発行し、双方が適格請求書を保存することで、消費税の仕入税額控除が適用されるようになります。仕入税額控除とは、自社の売上時の消費税額から自社が仕入れなどにかかった消費税額を差し引いた分を納税する仕組みのことです。インボイス制度が導入されることにより、大きく分けて三つの良いことが起こります。一つ目は仕入れを行った買い手に適用税率とそれぞれの購入額、消費税額などを明確に伝えられること。二つ目は自分の間には一定の割合で控除を受けられること。最後三つ目は消費税率と税額が示されている請求書を使用することにより、仕入税額控除の算出や確認が効率化され、算出ミスや不正を防げることです。

今回税について調べてみて、税の重要性を理解することができました。特に、高齢化が進み病やけが多くなっているため、治療費の一部負担という点に重要性を強く感じました。これからは世に税の重要性を広めていこうと思います。



## 神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 消費税率に対する僕の意見

神戸市立義務教育学校港島学園 九年

## 佐々木 誠

僕は今回税についての作文を書くにあたって税について調べた。気になる点がいくつかある中、今回は税の中でも身近にある消費税について仕組み、引き上げ理由、メリット・デメリット、人々の意見をもとに僕の意見を述べていく。

最初に現状の消費税率十パーセントは高いのではないかと考える。

まず消費税とは物品やサービスの「消費」に着目し課税する間接税というものにあたる。

税は製造業者、卸売業者、小売業者と段階を経て増えていく。消費税には世代や就労の状況に関わらず、国民全員にお願いするもので、経済活動に対する影響が相対的に小さく、税収が景気や人口構成の変化に左右されにくいといった特徴がある。

次に直近30年の税率の変化は平成九年に五パーセント、平成二十六年に八パーセント、令和元年に十パーセントとなっている。このことから税率が徐々に上がっていることが分かる。そして今年十月一日からのインボイス制度によって一部の人々に影響が及ぶことも考えられる。消費税率が上がっている理由として挙げられるものは主に年金や医療など社会保障の財源確保だ。これらのことから消費税率の上昇に不満をもつ人は少ないであろう。次にメリットとデメリットで挙げられるものとしてメリットでは社会保障の安定、地方の

税収の安定、世代間の格差を是正があり、デメリットでは家計への負担、低所得者の負担増、一次的な景気の悪化がある。デメリットもあるが、何か取り組む際、その分のリスクがあるので仕方ないことだと考える。

そしてこのように消費税率が上がっている中人々の意見としてはどのようなものがあるのだろうか。まず賛成・反対派の割合ではアンケート結果から約四・六で反対派が少し多いことがわかる。このアンケートの回答者の賛成派と反対派のそれぞれの意見として最も多かったのは、年金・医療・介護や子育て支援に必要な、消費税には低所得者の負担が重くなる逆進性の問題があった。僕はどちらとも意見に共感できるのでどちら派かは決めることができない。

次に消費税率が上がれば負担を感じている人の割合は全体の約六割である。これは消費税が上がることによる反対派とほとんど同じ割合である。

これらのことから僕は消費税率は今のままでも良いと思った。消費税の特徴や消費税率の上がる理由を知ることによって消費税の大切さを理解することができた。反対派の中で僕と同じような人もいると思うので国民全員に消費税について知ってもらうことが必要だと考える。そして、実際どのようなことに税金を使ったのかしっかり伝え、その使い道に納得してもらおうことが大切だと考える。そうすると、国民の消費税に対する不満は減るのではないだろうか。

## 神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 生きていくために

神戸龍谷中学校 三年

## 富依 千夏

「生きていくためには税金を払うのは仕方ないといけないのよ。」母がいつの日かテレビを見てる私に言ったのを思い出した。税金が上がっていく事に私は不満を抱いていた。何故、商品を買っているのにそれに上乗せした金額を払わなければいけないのか、仕事でお金を頂いた時に一定数の金額を超えたとお金を返さないといけないのか私は不思議でたまらなかった。小学校の時に読んだ税に関する本に、税金を払わないと一つ五百円で買えていたお菓子が一万円以上に値上がりすると書かれていた。当時の私はそれに驚きはしたが理解はしなかった。そんなある日、学校に税理士の方が来てくださる日が設けられていた。税金の事について少しでも知れる機会があったが、どうせ難しい話で私はまた理解できずに終わるのだろうと思っていた。税理士の方は難しい話をべらべらと話すのでは無く、分かりやすいようにクイズとアニメーションの二つで話を進めてくれた。まず税金の種類で五十の種類があり、思っていた以上に少なかったというのに驚いた。私知っていたのは二種ほどだが百種以上あるものだと思っていたので、思わず驚いた。そして、次にアニメーションを税理士の方は見せてくれた。アニメの内容は「もし税金が無くなったら」というものだった。でも税金を支払わなくてもそんなに変わらないだろうと疑わずに私はそ

のアニメを見た。しかし、私はとても大きな衝撃を受けた。なぜなら、まるで日本で無い世界だったからだ。街は整備が整っておらず、子供は学校にも行けず、火事になっても誰一人助けてくれず消防車もお金がかかるのだ。本当にココは日本で当たっているのかと自分の目を疑った。それほどまでにひどい世の中だったのだ。その中で私が一番目を疑ったのは子供が中学校や小学校に行けてない事だった。義務教育が無くなり子供が十分な教育が行き渡ってないのだ。そして、「行けない理由がお金が高くて行けない」という事だった。公立で高いという事は、私立の私達はもっと行けないのではないかと驚いた。母が税金を支払わないと生きていけないという言葉がよく理解できた気がした。税金を払い相応のサービスを受け取る。この行為で私達は生きているのだと改めて理解した。私は税金を支払う事でこの世が成り立っている事を理解し、年を増して行く事で税との関わりが深くなる事を覚えた。大人になると税と税金の支払いが多くなるが、切っても切り離せない税との関わりを大事にして学んでいきたいと思いました。



神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

### 新たな意見、新たな道筋

神戸学院大学附属中学校 三年

鈴木 菜央

選挙権の年齢が十八歳に引き下げられてから七年が経った。初めは高い投票率を記録したが若者の政治離れに大きな変化が起こったわけではなかった。その結果、若者中心の政治体制を実現するには時間がかかると考えられる。政治では日本のお金が大きく動かされる。特に人々の身近にあるのは「税」が挙げられるだろう。では、そのお金をどのように使えば若者が政治に意欲的になってくれるだろうか。生活に関することや世界の情勢に基づいて使いたい方が、私は日本が漫画・アニメ大国であるという点に注目したい。

日本は観光地としてかなり上位に入る国で、世界国際フォーラム二〇二一年版観光魅力度ランキングで一位を獲得している。外国人観光客の来日理由として、日本の伝統文化や食文化・美しい自然に加わり日本のアニメ文化に惹かれて来日する人も多い。現に、イギリスの大英博物館で開催されたマンガ展「The City exhibition Manga」では、三カ月の期間中十八万人が訪れるほど大人気となった。これは企画展の中で歴代最多来場者数を記録したほどの反響だったそうだ。それに、日本映画協会は二〇二一年の世界における日本アニメ市場規模が過去最高の二兆七千四百二十二億に達したと発表している。それほどまでにアニメ産業などは日本の経済に貢献しているのだ。

しかし、こんなにも日本に貢献しているエンタメ業界に激震が走った。それは二〇二三年十月より始まる「インボイス制度」である。インボイス制度とは消費税の納税額を正しく計算するための新しい制度である。この制度がエンタメ業界に波紋を呼んでいる。その理由は大きく二つある。

一つ目は手続きが煩わしく面倒である、という点だ。慣れている人やそれなりに自分からできる人はいいかもしいれないが、イラストレーターなどの個人で業務を行う場合事務仕事が得意な人ばかりではない。だからといって税理士に頼もうにも数万もすると金銭的余裕がない人は手続きを行えず、仕事をとるのが難しくなる。

二つ目は取引をしてもらえなくなるかもしれない、という点だ。インボイス制度を発行するのに必要な「適格請求書発行者」に登録していないと漫画家などの請求書では「仕入税額控除」という課税事業者が消費税の納付額を計算する際に、売上にかかっている消費税から、仕入れにかかった消費税を差し引く仕組みを受けられないので、新規の取引が難しくなったり報酬を減らされたりする可能性がある。

これらの理由によって負担が増え、廃業の危機に陥っているエンタメ業界の人がいる。しかし、業務効率向上や不正防止ができた日本政府も経過措置制度などで対応したりしている、今後日本の最善策を見出して欲しいと思う。

神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

### 少子高齢化と税

神戸学院大学附属中学校 三年

平良 結

私が住んでいる町はお年寄りがたくさん住んでいます。家の近くの商店街を歩けばお年寄りが手押し車を押していたり、ベンチに座って話をしていています。私たち若い世代よりも高齢者が多い物です。今、日本、世界で深刻な問題となっている少子高齢化という事です。

生まれてくる子供の数が減少し六十五歳以上の高齢者の数が増えていく事です。二〇〇〇年には三・六人で高齢者一人を支えていたのに二〇五〇年には一・三人で高齢者一人を支える事になると言われていて近い将来の問題になっていきます。今の社会保障制度のままだと、年金や医療費の負担が上昇を続け、私たちの世代に大きな負担がのしかかってくる予想されています。それに対してその費用を負担する働き手が減っている事が大きな問題となっています。現代では働き方も様々で、正社員ではなくフリーターやパートをして働く人も増加したり、独身や夫婦二人だけの家族も増えるなど家族構成も変化しています。

この事はこれからの日本の社会や税の対策について考えていく上でとても重要になる事です。これ以上事態を深刻化させない様にする対策が日本にとっての重要な課題です。例えば、子供がいる家族は税を下げるとすると、経済的負担を少しでも減らせると思います。また子供を育てやすい環境や働きやすい環境を整えるために税金を使う事は必要だと思います。

ます。税金の多くは社会保障に使われていて、急速な高齢化によりその額は増加しています。社会保障の額を抑える事が課題となり、医療や介護費をいかに抑えるかは、高齢者の健康寿命を延ばす取り組みが必要だと思います。つまり元気な高齢者を増やしていくという事です。支えがなくても生活していける高齢者を増やす事により、働き手の負担が減るという事です。そして介護が必要な状態にならない様に予防していく事が課題になります。

私の住む地域では、高齢者が集まって体操や器具を使ってストレッチを出来る場所があり、いつも賑やかな声が聞こえてきます。また近くには昔の小学校を改造して、大人の学校の様な場所もあります。高齢者の人たちが講師となって、お料理教室や書道そろばん等、様々な教室があります。生徒は子供達や子育て中のお父さんお母さん等これも様々です。

この様な取り組みこそが高齢者のやりがい、生きがいにつながり健康寿命を延ばす事になると思います。そして高齢者の健康寿命が延びれば医療や介護費を抑えて、税金の社会保障費を抑える事につながると思います。

少子高齢化、テレビや新聞で度々耳にする言葉となっていますが、私が大人になり一人の働き手となり納税者となる頃には、少しは歯止めがかかってほしいです。私も今まで支えてもらった分、税を必要とする人々を支えていき、次の世代へ税のバトンを渡して明るい未来へつなげていきたいです。

## 神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 私達の生活を支える「税金」

神戸学院大学附属中学校 二年

北野 修蔵

僕が住んでいる加古川市では、これまで十五歳までだった「子ども医療費控除」を去年の七月から十八歳まで医療費無料化に拡大しました。所得制限もなく、十八歳までは一律にこの制度を受けることができます。

僕は小学三年生の頃、手術で入院したことがあります。風邪を引けばすぐに耳鼻科にかかります。その他、歯医者には定期的に眼科にも一年に一度はかかります。今まで子供だからお金を払わなくてもいいものなのだと当たり前のように思っていました。しかし、改めて考えてこのように僕たちは市政によって守られていたのだと気付きました。もちろん市の政策は市民が納める税金や国からの補助金で成り立っています。市は他にもごみの収集や道路や公園の整備、福祉事業などたくさん事業を行っています。僕はこんなにも身近に税金が使われ、それにより僕たちの暮らしを支えていることに気付かされました。

五年前の西日本豪雨のとき、家の前の水路の水があふれ出したことがあります。そのことに危険を感じた両親や近所の方が市にかけあい、水路が詰まる原因となっていた公園の木を剪定をしたり、今年二月には水路の水を抜き腐葉土の除去作業をしてくれました。

この作業完了に現地を調査し、剪定や除去作業に毎年少しずつ予算を立ててくれていたそうです。継続的に進められた結果、今年きれ

いな水路となりました。税金は高いと何度も耳にしますが市がこんなにも地道に動いてくれているならとても価値があるものだと思います。

しかし、一生懸命仕事をして稼いだ人がたくさん税金を払いたいと願っている人は少ないと思います。脱税は犯罪ですが節税は権利と聞いたことがあります。家族や自分の生活を自分の稼ぎで守りたいと思うとお金は必要だと思います。一生懸命働いた中から税金を納める。そして、その税金の中から国や地方公共団体などによって外からのサポートがある。僕たちの生活はこの仕組みの中でよりよいものとなるよう成り立っているのだと思います。

税金と一言に言っても幅広く、とても難しいもののように感じます。しかし意外と身近にあるものなのだと思います。僕は両親だけではなく、税金を納めるすべての人に支えられているという自覚をもたなければならぬなと思います。今の僕は何もできないけれど、国や市が税金を使って何をしようとしているのかに目を向けていくことはできます。まずは、現状を知る努力をし、税金によって守られた暮らしを大切に。診察を受けることができることに感謝する。きれいになった水路を守る。税金が使われる国政や市政に理解を深め、身近にある当たり前の生活に税金が使われているのであればそれに気づくことから始めたいと思います。

## 神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 大谷翔平の年棒と税金

神戸学院大学附属中学校 二年

京山 陽南

「プロ野球エンゼルス・大谷翔平選手、二〇二三年の年棒は約三〇〇〇万ドル。日本円でなんと約四三億円！」

日曜日の朝、いつものように付いていたテレビには、プロ野球選手エンゼルス・大谷翔平の年棒額について報道されていた。年棒とは、ポーンや残業を除いた一年間の収入のことである。私は、大谷翔平は四三億円もの大金を手に入れるのかと驚いた。だが、どうもそういうわけではないらしい。そこで気になった私は、大谷選手の年棒と税金の関係やおおまかな計算方法などを、インターネットを使って調べたことにした。

日本では通常、選手は、収入から社会保険料、そして“所得税”を納めなければならない。その所得税も、収入の量によって引かれる額が変わる。だが大谷選手はアメリカに在住しているため、日本とは少し税率も変わってくるらしく、アメリカの税率も変わってくらしく、アメリカの税率の方が日本より安いらしい。

アメリカの所得税は、連邦税、州税、市税の三つが存在し、仮に大谷選手がカリフォルニアに住んでいると仮定した場合、大谷選手の現在のアメリカでの所得税は、三〇〇〇万ドル×三七％（最高税率）＝二二一〇ドル、一ドルがおおむね一四五円なので、米国連邦所得税はおおむね一六億九五〇万円となる。

さらに、カリフォルニア州税の計算式に年棒の三〇〇〇万ドルを当てはめて考えると、カリフォルニア州税は約五億三二七一万円となる（税理士ドットコムより）。これまでの計算で合計すると、結局大谷選手ができるお金は約二億円程度ということだ。これらの情報はあくまで仮定であるため、実際の金額は上下するだろうが、社会保険料などを抜きにして考えたとしても年棒の約半分も税金として引かれるということになるのだ。

このように、大谷翔平選手は、四三億まるまる手にするわけではなく、そこには様々な税金事情が隠れていた。そもそも大谷選手の年棒自体の額が大きすぎるため税が引かれても大金なことには変わりないが、他のスポーツ選手、ましてや私たちの父母達も給料から結構な割合の税金が差し引かれていると知り、大人の大変さを感じた。

今まで消費税にしか関わってこなかった一四歳の私だが、“所得税”というこの先関わるであろう税金について、詳しく知れてとてもためになった。日本とアメリカでは税の仕組みは異なるものの、将来私たちも大人になって自分でお金を稼いだときも、約半分以上が税金になってしまうのだからと勉強になった。またこれからは、今度は消費税と所得税以外の税金についても少しずつ学んでいこうと思う。



神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 支え合いの社会

神戸学院大学附属中学校 一年

勝山 拓海

僕にとって税金は、あまり良いイメージがなかった。買い物をするに消費税を取られるし、ある時期になると、両親から固定資産税や自動車税の支払いが大変だと聞いていたからだ。

今回税の話聞いて、税はもっと身近になり、僕達が健康で安全に暮らしていきけるのは国民が納める税金のおかげなんだと改めて学ぶことが出来た。

思いかえしてみると、僕自身も直接税金に支えられている事があった。それは医療費である。僕には持病があり、定期的に病院に通っている。そして、何種類かの薬をもらい、毎日服用している。通院費四百円、薬代四百円。当たり前のように支払っている。しかし、これは当たり前ではない。本当はかなり高額になるそうだ。僕の医療費が税金から賄われていると知り、みんなに生かされている事に感謝しなくてはいけないと思った。アメリカでは医療費が高くで通院できない人もいると聞いた事がある。

税金が高いと時々耳にする事がある。以前から消費税を上げる、上げないと議論になっている話も聞く。僕は税金は高いと思っていて、豊かで安心して暮らせる社会の為に、みんなで考える必要があるように思う。

その他にも僕の周りには、身近過ぎて当たり前になっているサービスがある事が分かっ

た。学校で教科書が無償で提供されている事、毎日お風呂やトイレで使用している上下水道が整備されている事、ゴミの収集、警察、消防などの公共サービスなど。

その中でも特に僕は、小さい時によく利用していた児童センター「こべっこランド」などの教育施設が充実するように税金が使われたいと思う。僕が助けられたように、将来を担う全ての子供達が平等に安心して学べる環境が整えられる国になったらいいと思う。

国の財政は、歳出が税収を上回る状態が続いていることを知った。今後、さらに少子高齢化が進み、高齢者にかかる費用が増える一方、費用を負担する働き手が減っている事とても深刻な問題であると思う。何か対策を取らなければ、日本の国が豊かになっていくことはないと思われる。その為に僕達に何ができるか。

中学生の僕達が今、出来る事は、税の役割を正しく理解し、関心を持つことがその第一歩であると思う。そして、将来的に正しい納税者になりたいと思う。僕が支えられている様に僕も誰かの支えになりたいと思う。そして、税のことを大人や、おさない子どもたちにも、しらせたいと思う。



神戸納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 父の仕事

神戸学院大学附属中学校 一年

佐藤 颯

僕の父は消防士です。救急救命士なので救急車に乗っています。夏休みの台風7号の時、本当なら家族で静岡に旅行に行く予定でしたが、台風接近のため父は指令招集がかり仕事に行きました。そのため旅行は中止となりました。とても残念に思いましたが、父はこのような話してくれました。

「警察官や消防士は、市民のみんなの税金で動いているから、みんなが大変な時は助けてあげないといけないんだよ。地震や火事は急に起こる災害だから、出勤している人たちが対応できるけど、台風のように事前にわかっている災害は、どんな被害でも対応できるよ。うになるべく多くの人数を確保して、最悪の事態を想定して待機しておくんだよ。だから、今日は颯（僕）がお父さんの代りにお母さんや弟たちのことを守ってな〜〜。」

そうやって台風の中仕事に行きました。調べたところ、日本の救急車は、国からの交付金や自治体からの補助金などが財源となっており、税金を使って救急車の購入やメンテナンス、ガソリン代、医療機器などの購入などもまかっています。一回の出動で約45000円かかるといわれており、決して安くはない金額です。令和4年度の救急出動件数は約720万件なので、約3000億円以上もかかっていることとなります。

日本では無料の救急車ですが、海外では、

救急車を利用するのに費用がかかる国もあります。例えば、アメリカのニューヨーク州では、消防局などが運営する公的な救急車の他に、民間の救急車も活用されています。公的な救急車の場合、8〜15万円の基本料金と走行距離や医療品の使用によって追加料金が加算されていくシステムです。民間の救急車の場合3万円ほどですが、軽症の場合や不適当な利用と判断された場合には費用の負担があります。

私たちの支払っている税金で動いているからといって安易に救急車を呼ぶ人がいることもまた問題に上がっているようです。前に聞いた話ですが、こけて擦りむいた、自分であるのに救急車を呼んだ、酔っぱらって帰れないから救急車を呼んだなど緊急性がない場合の安易な利用は、本当に緊急の方が19番したときに出勤が遅れたり、間に合わなかったりしては、救急車の意味がないと思います。

税金を払っている私たちだからこそ、救急車の正しい使い方を理解して、必要な時にすぐに助けってもらえる体制を作っていかなければならないと考えました。

そして、市民を守ってくれる父と消防士さんたちを心から尊敬します。

## 税のある暮らし

神戸学院大学附属中学校 一年

富谷 葉奈

私にとって税と言えば消費税というイメージでした。税金には50種類ほどの種類があるそうです。

私が生活している上で一番使用するものを考えた時、「水」が思い浮かびました。顔を洗ったり、お風呂に入ったり、歯をみがくなどの当たり前の身だしなみが毎日できているのは、水があるからです。こうして毎日水を使うことができるのは、上下水道の整備が行われているからです。水の他にも通学時には道路を使ったり、外で遊ぶ時に公園を利用したり、旅行へ行く時に空港を使ったりと色々な物を私は当たり前に出ることができそうです。こう言った色々な物を当たり前に出すには税金が必要になってきます。もし、税がなかったら、上下水道の整備には大きなお金がかかるので整備ができなくなるかもしれません。上下水道の整備がされなかったらきれいな水が使えないかもしれません。それに道路の整備もされずに危険な場所が増えてしまうかもしれません。公園もきたなくなってしまうかもしれません。このように税金のある生活と、税金のない生活では大きな違いがあります。税金がなければ当たり前にはできないことが税金があればできるのです。

けれど税金を収める人の中には税金の重要性がよく分からず「仕方なく税金を収めている人」と税金の重要性がよく分かり「必要だ

と思い税金を収めている人」が居ます。税金は人によって不公平などを感じないよう、同じ金額を収めています。同じ金額払うにしても、税金を収める人が税金の必要性に気づいていなければ、ただ国にお金を渡しただけと感じる人も居るのではないかと考えました。私はそう言った大人が減ってほしいと思います。税金のある生活と税金のない生活を比べて考えた私は、税金の必要性に気がつくことができ、税金は自分のために収めているようなものなんだと理解することができたからこそ、もっとたくさんの人に税金の必要性を知って、意味のある税金なんだと言うことを理解した上で、税金を収めてほしいと思いました。

私はこの税の作文を書くために税についてよく調べ、よく知り、よく理解することができました。自分が大人になって多額の税金を収める立場になった時には、税金が必要だと思ひ、税金を収める意味をよく理解した上で税金を収めたいです。税金は人のためだけではなく、自分のために払っているものでもあるということをもっとたくさんの人に知ってもらい、税金がある日本に感謝の気持ちや、ありがたみを忘れずに生活してほしいと思ひました。これからは自分も、税金があることのあるありがたさを感じながら、生活していきたいです。



《  
M  
E  
M  
O  
》







## 納税貯蓄組合とは

納税貯蓄組合法（昭和26年法律145号）に基づく団体で、納税資金の備蓄による各種税金の円滑な納付を目的として組織された団体です。

組合には、国税、県税、市税等の納税者であれば誰でも加入できます。現在、組織は全国の市町村の商店街や町内会、同業組合、企業等の納税者を構成メンバーとする「単位組合」を基礎単位とし、その上に市町村連合会、所轄税務署単位に地区（署）連合会を、更にこの地区（署）連合会を構成員として、各都道府県ごとの連合会が組織されています。また、その上部団体として、全国12の国税局管内ごとに局連合会を設置し、これらを全国的に統一して、全国納税貯蓄組合連合会（全納連）が置かれています。

## 納税貯蓄組合の活動

- 1 租税の期限内納付の確立
  - (1) 納税資金の計画的備蓄の推進と納期内完納の定着化
  - (2) 振替納税制度の普及拡大、e-Tax及びeLTAXの普及、ダイレクト納付の利用勧奨
  - (3) 消費税の滞納未然防止活動
- 2 納税道義の高揚
  - (1) 租税教育の推進
  - (2) 税の広報活動と正しい税の理解者・協力者の拡大
  - (3) 中学生の「税についての作文」募集

## 中学生の「税についての作文」募集事業の概要

中学生の「税についての作文」募集事業は、納税道義の高揚のため租税教育の一環として、昭和42年以来、全国の中学生を対象として、その募集活動に取り組んできたものです。

第57回（令和5年度）応募状況

（単位：校・編）

区分	全国	近畿	兵庫県	神戸市中央区
応募校数	6,457	1,169	301	10
応募編数	445,945	101,013	24,124	733

令和6年11月発行

【発行者】 神戸納税貯蓄組合連合会

事務局 神戸市中央区中山手通3丁目12-6

TEL 078-231-5811

無断転載を禁ず